



霞が関の働き方に関する私の問題提起が、国会で取り上げられています。

■ 出発点～私の問題意識～

霞が関には、財務省、経済産業省など多くの官庁が集まっています。いま、その霞が関で働く職員（官僚）の過酷な長時間労働が問題になっています。命や健康に関わる問題でもありますし、疲れ果てた頭や体で仕事をして、良い成果を出すことはできません。

回りまわって、マイナスの影響を受けるのは、国民です。なぜなら、われわれ政治家とともに、国民の皆さんの暮らしをより豊かにするためのルールや仕組みを考えているのは、官僚だからです。

そのような過酷な働き方になっている責任の一端は、われわれ政治家にもあります。

国民の皆さんの方をちゃんと向いて仕事ができる。そのような環境づくりを目指して、私から今回、政府に対して質問主意書を提出しました。

■ 「質問主意書」とは？

国会議員は、委員会などの場で直接口頭で、大臣や政府に対して質問するのが一般的ですが、それを補完する紙ベースでのやり取りのことです。

【質問内容】

■ 西村大臣の組織マネジメントに関して（要約）

新型コロナウイルス感染症を克服するにあたり、コロナ室の異常な労働時間や理不尽な業務運営は、職員を疲弊させ、生産性を低下させているのではないかと？

Q. コロナ室の職員の超過勤務時間の平均は？
また、最長の勤務時間は？

詳細は参議院のHPで！
“質問主意書”で検索を



Q. テレワークの実施率は？また、1日当たり何人がしている？